

利尻島の自然と遊ぶ スペシャリスト

渡辺 敏哉 (わたなべ としや) さん

1969年利尻島生まれ。ペンションオーナー兼利尻山専門の山岳ガイド。利尻山岳会会長、北海道山岳ガイド協会会員、JMGA登山ガイドステージII資格、スキーガイド・ステージII資格。



北海道に移住（Iターン、Uターン）して、新たな取り組みを行う輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーかとうけいこさん。

第2回は世界でも稀な自然環境を有する、利尻島をフィールドに一年中徹底的に遊び、それを世界に向けて発信している渡辺敏哉さんです。

一年を通してアウトドアを満喫しているイメージですが

小さいころはスキーと釣りが好きでしたね。アウトドアが好きになり、ガイド業につながる原点はサーフィンなのかもしれません。18歳の春に中古のボードを友人から譲り受け、その年の冬にスノーボードを始めました。旭川のスキー場で、ある意味運命の人に出会ってしまいました。その人は湘南在住のプロサーファーでした。「サーフィン始めたんだったら、湘南に波乗りしにおいでよ」と言ってくれました。この言葉を聞いて、友人と2人で、湘南に移住してしまいま

した。友人は仕事を辞め、僕は旭川高専を中退して。湘南でサーフィン三昧の暮らしを送り、30歳でサーフショップを開業しました。

利尻島に戻られたのはいつですか

2003年の12月に島に戻ってきました。実家の事業を手伝わなければという思いからでした。父からは早く戻って来いと何度も催促されていましたから。いつかは戻ろうと思っていました。僕は4人兄弟で3番目なんです。兄も姉もみんな島で仕事をしています。

利尻に戻ってサーフィンをする機会は減ったのですか

頻繁に波を楽しむことを半ばあきらめていました。でも、改めて故郷の海を見てみると、そこには魅惑的な波が打ち寄せ、本州では見られない雄大な景観の中でサーフィンを楽しむことができると気づきました。そして、サーフポイントを開拓し、ネットで海の状況を確認できるWEBカメラを設置し、「RISHIRI WAVE」

海をバックに利尻山東尾根に登る
ヨーロッパからのツアー参加者(2月)



というサイトを開設して利尻島のサーフィン情報を発信しました。その結果いつしか全国からサーファー達が利尻島を訪れることも増えてきました。

旭川で4年、神奈川県での14年の暮らしを経て島に戻って感じたことを教えてください

島に戻った翌年の6月に久しぶりに利尻山に登った時に、「利尻山はこんな山だったんだ」と驚きました。山頂から見る景色も素晴らしいし、足元に広がる花がきれいでした。麓では見られない花ばかり。それで、子どもの頃はそれほど好きではなかった山に登りだしました。利尻山は360度、下から上まですべて魅力的な山なんです。

バックカントリー*をぜひ利尻で！という声を聞くようになりました

日本のスキー文化はリフトのあるゲレンデで滑ることが常識ですが、ヨーロッパや北米のバックカントリー先進国の人達は「日本人はなぜ自然の山で滑らないのか」と言いますね。ゴルフに例えるとスキー場は打ちっぱなしで、コースがバックカントリーという感じでしょうか。スキーを“地球を歩く道具”だと思っ

ているような、全く違ったマインドを持っています。かつてはバックカントリーと言えば長野県の白馬が人気でしたが、それがニセコへ移り、そして北海道全体、最北の利尻を目指す人も増えてきました。パウダースノーと360度海に囲まれた利尻山ならではのロケーションが人気の秘密です。

※ バックカントリー

斜面に自力で登ってスキーやスノーボードで滑り降りるという野性味あふれる冬の遊びのこと。

地元で暮らすガイドとして課題はありますか

利尻島、北海道、日本にもまだ山岳ガイド、それもスキーガイド・ステージⅡという資格を持っている人が少ないことです。この資格は合格率も非常に低く、資格取得まではなかなか険しい道のりです。いかにしてガイドを増やして受け入れ態勢を整えていくかというのが大きな課題です。

今のところバックカントリーは、ガイド仲間が自分のお客さんを連れて来ることが多いですが、今後はさらに外国から直接「利尻で滑りたいからガイドしてほしい」というニーズが高まると予想できます。今シーズンはバックカントリーのお客様の7割が外国人でしたからね。なお一層、ガイドの養成を急がなくてはなりません。

島への想いと今後についてお願いします

利尻島は世界有数の独特な自然環境を持っています。固有の高山植物やエゾマツ・トドマツの豊かな原生林の森、日本海の豊富な海の恵みなど、日本の最北という厳しい気候条件のなかで、たくましい多くの生命を育んでいます。360度海に囲まれている世界的にも例をみない利尻山だからこそ見られる絶景があります。こうした素晴らしい島に暮らす自分たちが、日頃体験し、心で感じた「利尻らしさ」を訪れる方々に伝えていきたいと考えています。

インタビュー後記

渡辺さんの撮影した動画や写真を見ながら、お話を聞けるセミナーが札幌で開催されます。「利尻ナイト～ 通年型北海道観光の可能性を考える (仮)」9月27日(金)19時～21時、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W103室、入場無料。当日は司会を担当します。

お問い合わせメール：sacade@econ.hokudai.ac.jp

電話番号：011-706-4066

かとうけいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表